



海上保安庁

令和4年8月3日

福德岡ノ場の噴火からまもなく1年

～航空機による観測結果をまとめました～

令和3年8月13日に噴火が観測された福德岡ノ場につきまして、まもなく噴火後1年が経過することから、当庁航空機による観測結果をまとめました。

詳細は、海上保安庁海洋情報部HPの「海域火山データベース」をご覧ください。

Web アドレス : <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/GIJUTSUKOKUSAI/kaiikiDB/list-2.htm>

この噴火により形成された新島はその後の浸食により徐々に縮小し、12月に波浪により見え隠れしていたのを最後に、陸地は確認出来なくなりました。本年6月17日の観測では、島が浸食を受けてできた浅海部が確認されるとともに、付近に薄い黄緑色の変色水が見られました。

海上保安庁では航行警報を発出し、付近を航行する船舶に注意を呼びかけています。

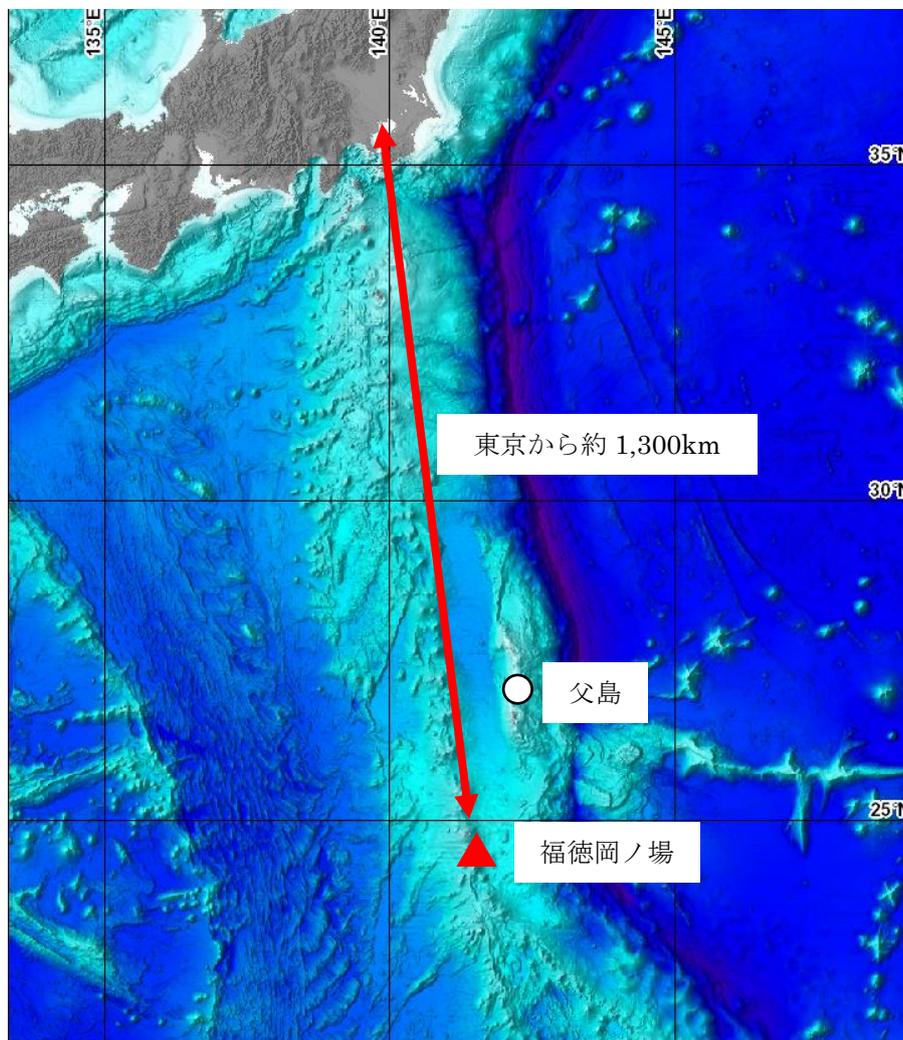
【経緯】

- 令和3年8月13日 福德岡ノ場付近にて噴煙を確認
- 8月15日 直径約1km馬蹄形の新島を確認
- 8月16日 新島の一部が消失して（ ）型に変化
- 8月26日 東側の新島は一部を残して海没
- 12月27日 新島は波浪により見え隠れしている状況
- 令和4年4月18日 かつての新島付近において波浪礁を時折確認
- 6月17日 かつての新島付近において浅海部を確認

<参考>

福徳岡ノ場について

東京から南に約 1,300 km、南硫黄島から北北東約 5 km の位置にあり、この付近の海底火山のうちでも、特にたびたび活動を繰り返している場所です。とりわけ、1904 年、1914 年及び 1986 年には、一時新島を形成しましたがいずれもその後海没しており、1986 年の際は約 2 か月後には海没しました。また、同海域は海底での火山活動を示す変色水がしばしば認められます。



福徳岡ノ場の位置図

出典：海しる（海洋状況表示システム）

Web アドレス：<https://www.msil.go.jp/>

噴火直後の様子



令和3年8月13日
福德岡ノ場付近にて噴煙を確認
噴煙の高さは約16,000m
(気象衛星ひまわり：気象庁)



令和3年8月15日
断続的な噴火が継続



令和3年8月16日
噴出した軽石等の浮遊物は、
蛇行しながら西北西方向に断
続的に約100km漂流

新島の変遷（1）



令和3年8月15日
直径約1kmの馬蹄型の新島を確認
軽石等の浮遊物



令和3年8月16日
新島の北側が消失して()型に変化

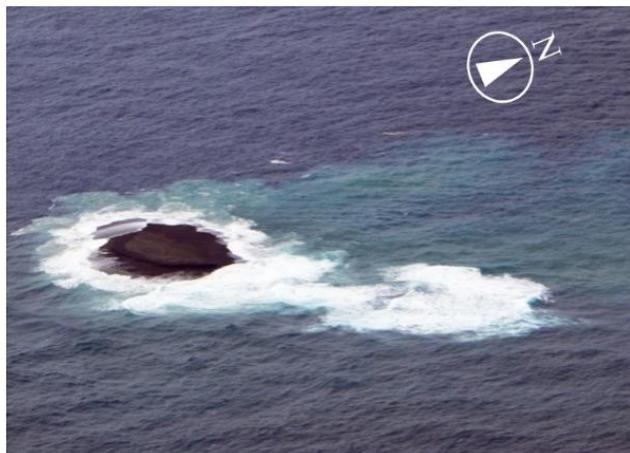


令和3年8月26日
東側の新島は一部を残し海没

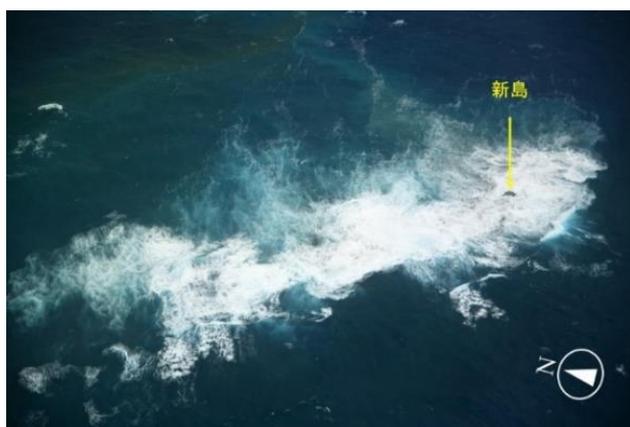


令和3年10月12日
西側の新島の縮小を確認

新島の変遷 (2)



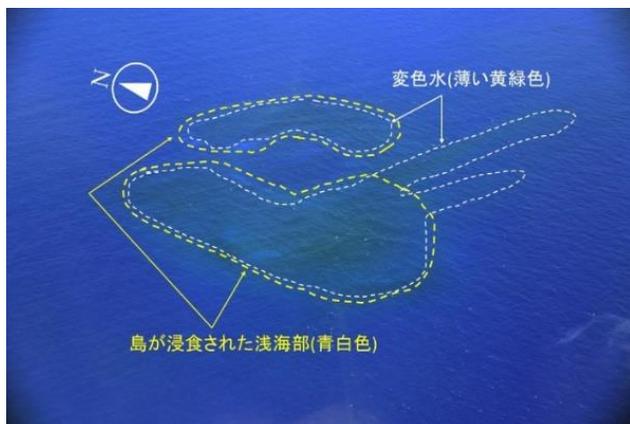
令和3年12月14日
西側の新島の縮小を確認



令和3年12月27日
波浪により陸地が見え隠れしている
状況



令和4年4月18日 撮影
かつての新島付近において、波浪礁
を時折確認



令和4年6月17日 撮影
噴火により形成された島が浸食を受
けてできた浅海部を確認